



西陵中学校校長室だより

第6号 R6.9.25



～ 題字は、校歌（玄関掲額）より ～

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果から

今回の校長室だよりでは今年度の4月18日に実施した、全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせします。3年生の皆さんは配付された個人票を参考にして、今後の学習に活かしてください。

学校としては、全体の正答率や回答状況を分析し、学校としての「強み」「弱み」の把握に努め、全教員の共通理解のもと授業改善等を通じて学習や生活の指導に活かしていきます。

なお、今回の調査の結果が通知表などの成績に加味されることはありません。



【全体の傾向】

今年度は国語と数学の2教科で実施され、本校の正答率は国語・数学ともに全国平均を上回っていました。また、無解答率が低く、粘り強く取り組むことができていたことがわかりました。また、学習に対して前向きな姿勢や、自己肯定感の高さがみられる結果ともなっています。

【国語】

<強み>

- ・全体の平均正答率は県平均・全国平均を上回っている。
- ・「知識・技能」において、全国平均を上回っている。特に、短歌の表現技法に関わっての設問に対して、全国平均を10ポイント以上上回った。今までの授業内容が定着している結果となった。
- ・「我が国の言語文化に関する事項」についての正答率は10ポイント以上全国平均を上回った。
- ・「書くこと」において、全国平均を上回っている。

<弱み>

- ・「情報の扱い方に関する事項」本校の正答率は57.3%で、全国59.6%と比べ、やや低くなっている。複数の情報と情報との関係について理解することが課題としてあげられる。
- ・「話すこと・聞くこと」について、正答率が全国平均を上回っているが、「話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する」という設問においては、全国平均を下回った。「話の内容を捉えることができるか」という点が課題である。
- ・「読むこと」について、他の観点の問いに比べると正答率が低いが、全国平均よりは、やや高い結果となった。問題文の内容をしっかりと把握する力を養うことが、今後の課題と考えられる。

【数学】

<強み>

- ・学習指導要領のすべての領域で平均正答率が全国平均を上回っている。また、無回答率については、短答式や記述式の問題について県平均や全国平均を下回っており、あきらめずに粘り強く取り組もうとする意欲は高いと考えられる。

(数学続き)

- ・設問によっては全国平均を大きく上回るものもあった。基本的な用語の意味の重要性が理解できていると思われる。また、記述式の問いにおいて、数学が苦手な生徒も粘り強く取り組めるようになり、無回答率が県平均と全国平均を大きく下回ることにつながったと考えられる。

<弱み>

- ・「一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているか」「事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうか」という設問については、全国平均をやや下回った。今後、関数や図形の復習のときに再度確認する必要がある。

【生活や学習の様子について】

- ・「自分には、よいところがあると思いますか」に対し、「当てはまる」と答えた生徒、また「先生は、あなたのよいところを認めてくれていますか」に対し、「当てはまる」と答えた生徒は、全国平均に比べて20ポイント以上高い結果となっており、自己肯定感・自己有用感が育まれている様子が見受けられる。それに付随し、「人が困っているときは、進んで助けていますか」に対し、「当てはまる」と答えた生徒も全国平均より20ポイント程度高い結果となっている。
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に対し、約半数の生徒が「当てはまる」と回答しており、全国平均より20ポイント以上上回っている。他者とのつながりや社会とのつながりを意識したキャリア教育の実践の成果が反映されている。
- ・「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対し、「当てはまる」と回答した生徒は全国平均より20ポイント以上、また、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互い協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」に対して、「当てはまる」と回答した生徒は30ポイント以上高く、学び合う姿勢を大切にしている姿勢が身につけている。
- ・国語の問題では、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒は87%程度(全国72%)であり、粘り強さをもち取り組む姿勢が身につけている様子がある。一方、数学では、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒は54%程度(全国50%)であり、「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた」と回答した生徒は43%(全国41%)であった。そのような結果になった要因は、「解答時間は十分でしたか」に対する回答から、粘り強く取り組んだものの苦戦したのであろうと考えられる。

【結果を踏まえての指導の工夫・改善】

- ・問題を解決するためのプロセスを大切に、1、問題の理解 2、問題の特徴づけと表現 3、問題の解決 4、解決方法の共有 5、問題の熟考と発展を意識し、授業を実践する。
- ・「めあて」と「ふりかえり」を充実させる。授業の中で「めあて」を明確にし、終わりには「ふりかえり」を行い自身で学習した内容を振り返る。
- ・「正解が1つではない課題の答え(納得解)」を導き出す問いを提示する。道徳や新聞活用、キャリア学習を通し、自ら課題を見つけ、他者との交流を通し、自分の中に納得解を見つける。
- ・キャリア教育の充実を図り、生徒の自己実現に必要な資質・能力を身につけていくことができるように、今後も特別活動を要としつつ教科横断的に取り組んでいく。